



下谷区車坂町(台東区東上野3丁目) 1936年(昭和11年)

KINEO KUWABARA: Tokyo Through A Leica 桑原甲子雄写真展 ライカと東京



ライカC型

東京都写真美術館
(恵比寿ガーデンプレイス内)



〒153-0062
東京都目黒区三田1-13-3
TEL.03-3280-0099

URL <http://www.tokyo-photo-museum.or.jp>

2001年6月19日[火]—9月2日[日]

【開館時間】10:00~18:00(木・金曜日は20:00まで) 入館は閉館30分前まで
【休館日】毎週月曜日(休館日が祝日または振替休日の場合はその翌日)
【観覧料】(同時開催の映像展もご覧になれます)
一般500(400)円/小・中・高校生250(200)円 ()内は20名以上の団体料金
*小学生未満、65歳以上及びお体に障害をお持ちの方とその介護者1名は無料
(証明できるものをご提示ください)
【会場】東京都写真美術館2階展示室
【主催】東京都/東京都写真美術館
【特別協力】朝日ソノラマ
【協賛】重森弘淹顕彰会
【協力】日本カメラ博物館/サッポロビール/東武鉄道



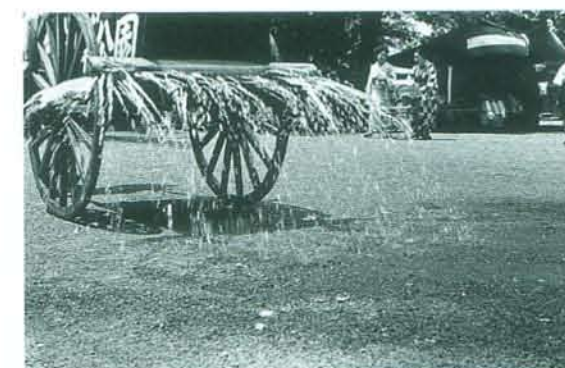
麹町区有楽町(千代田区) 1936年(昭和11年)



バスにて、世田谷区 1976年(昭和51年)



街 上野広小路 1935年(昭和10年)



浅草公園(台東区) 1937年(昭和12年)



千代田区麹町(千代田区) 1967年(昭和42年)

1925(大正14)年、ドイツのエムスト・ライツ社から映画用35mmフィルムをつかう小型カメラ「ライカA型」が発売されました。これまではくまのりにならないほどの機動性をもつこのカメラは、おりしも胎動をはじめた近代的写真表現を追求する動向にシンクロし、写真だけが可能にする新しい視覚を創造するのでした。この新しい写真の動向とカメラは、時をへずしてわが国にもたらされ、ピクトリアリズムを標榜する芸術写真を革新することになりました。

1923(大正12)年におきた関東大震災によって都市東京は破壊されますが、その復興はめざましく1930年代にはいと、鉄とガラスとコンクリートのモダン都市東京に生まれ変わります。このダイナミックに活動する都市の現実をとらえようとすると写真家たちにとって、ライカというカメラは格好の武器となったのでした。

1913(大正2)年、東京市下谷区車坂(現・台東区上野)に生まれた桑原甲子雄は1931(昭和6)年から隣家ののちに写真家として活躍する濱谷浩の影響で写真を撮りはじめます。翌年32(昭和7)年にはライカC型(1930年発売)を手に入れ、都市東京の日常的な生活の光景を写しとめてゆきます。桑原によって切り取られた都市の姿は、モダン東京の光と影が交錯する現実であるだけでなく、人の息づかいまでもストレートに感じさせる豊かな写真的現実であります。これこそがライカというカメラが可能にした世界であり、今日のわたしたちの生活に深く浸透している写真の原点といえはしないでしょうか。

本展では当館に収蔵している桑原甲子雄の作品を中心に、あわせてライカA型からライカM6までのライカの主要なカメラを展示して、スナップショットという近代的なまなざしが都市東京の変容をいかにとらえてきたかを検証しようとするものです。

【講演会】

平成13年6月24日(日) 2時~4時
テーマ「桑原甲子雄とライカ」 講師：田中長徳(写真家)

【フロアレクチャー】

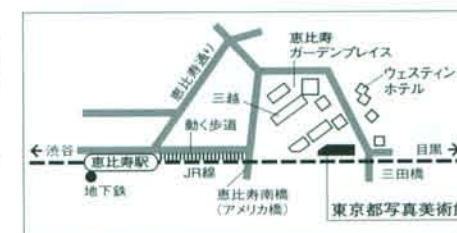
毎月第2・第4金曜日 2時より

【ワークショップ】

会期中に関連ワークショップを行います。
詳細は写真美術館ニュース・ホームページ等をご覧ください。

【関連展覧会】

日本カメラ博物館
「近代精密カメラの幕開け—魅惑のライカ—」
平成13年7月24日(火)~平成14年1月20日(日)
Tel.03(3263)7111



次回展覧会のご案内:

「手探りのキス 日本の現代写真」
9月11日(火)~11月25日(日)

カメラレビュークラシックカメラ専科No.60

特集:桑原甲子雄 ライカと東京

- 桑原甲子雄の写真 ●桑原甲子雄略年譜
- ライカ・レンジファインダーカメラ・ストーリー
- ライカ写真とは何か ●ライカ・スタイル
- ライカ関係文献 など

定価 2550円(税込)

全国書店、東京都写真美術館ミュージアムショップにて発売中

朝日ソノラマ

〒104-0061 東京都中央区銀座6-11-7

Tel.03(3572)3180

